

「国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部 2年 喜多彩香

プログラム参加前は中国語をしっかりと学んでいたのは大学での1, 2回生の時の授業のみだったので、一通りの文法事項は学習しているけれども実際に中国語で会話をするというのはほとんど未経験の状態でした。プログラムでは各生徒のレベル別に少人数クラスが編成され、月曜日から金曜日まで2時間40分(途中で10分休憩あり)中国語の授業がありました。大学での授業との最も大きな違いは授業がすべて中国語で行われるということです。先述のように中国語での会話が未経験の私ははじめ非常に戸惑い、何を言っているのか全然分からないような状態でした。しかしこのような中国語を聞いて理解し、そして中国語で話すしかない状況に置かれたがために、プログラム参加前と比べて中国語での会話に対する緊張、恐れは大きく軽減されたと感じています。課題はある日とない日があり、一番多い時でも一時間と少し時間があれば終わるようなもので、それほど負担にはなりません。内容はテキストの【練習問題】だったり、授業の予習、復習であったりすることがほとんどでした。プログラムでは他に週3回1時間ほどTutor Stationという時間があり、国立台湾大学の学生さんと中国語で雑談をしたり、学習の手助けをしてくださったりしました。非常にラフな空間だったので、私にとって良い息抜きの時間になってこの時間が非常に楽しかったです。また、1, 2週目の土曜日にはバーチャルツアーがあり、さらに台湾の様々な文化に関する2時間ほどのレクチャー動画3本を用いた教材も用意されており(これらはすべて英語で行われます)、中国語だけでなく台湾の文化も学びたいと思っていた私にとって非常に興味深いものでした。最終課題はそれぞれのクラスで出されたテーマについて、一人5分ほどのプレゼンテーションが課せられました。私は自分の引越しの経験について発表しましたが、三週間で学んだ文法事項や単語を応用させられるもので、非常に良い復習になったし、実践レベルで身につけられたように思います。更に自分のレベルを向上させるためにも学習を続けていこうという意欲が高まりました。

私は海外には旅行で少し行ったことがあるくらいで現地に留学に行ったり長期滞在したりした経験はありません。このプログラムでもコロナ禍によって現地に行くことは出来ませんでした。台湾の街の雰囲気や人の様子をうかがい知ることができたように思います。やはりプログラムが進んでいくにつれて現地に行きたいという思いは募るばかりでしたが、その中でも台湾の方々と知り合え、実際に色々なことを話せた経験は個人で台湾について学習する以上に彼らの対する親近感が増したり、生の声を聞けたりして台湾への理解がぐっと深まったように感じています。

これからの進路についてはまだまだ検討中ですが、他国との関係の中で様々なことを遂行することが避けられない今、私個人としてはさらに海外諸国への理解を深めていき、日本で暮らす人々や企業などと良い関係を築く一助となるような存在になれればうれしいなという思いが強くなりました。